世界文化遺産「ヒロシマ原爆ドーム」

「ユネスコの世界遺産」について、聞いたことがありますか?

ユネスコは、「国際連合教育科学文化機関（United Nations Educational, Scientific and Cultural Organization）」の英語の頭文字をつなげて作った"UNESCO"を意味します。「国際連合」は、略して「国連」とよばれます。

ユネスコは、世界中の美しい自然やすばらしい文化を未来につたえるために、「世界遺産」として登録し、大事に保存するよう努めています。1945年8月6日に原爆で破壊された広島県産業奨励館（「原爆ドーム」とよばれます）も、世界遺産に登録されました。

えっ?

「美しい自然やすばらしい文化」が世界遺産に登録されるんじゃないの?　人類史上はじめて核兵器で破壊された「広島県産業奨励館」の「鉄骨むき出しの残骸」がどうして「世界遺産」に登録されたの?

とおもった人。それは、もっともな質問です。

実は、ユネスコは、人間がわすれてはならない残酷なおこないを、ぜったいにくりかえさないように、「原爆ドーム」のような「負の遺産」も「世界遺産」に登録し、その意味を未来に語りついでいこうと考えたのです。

広島県商工経済会の屋上から見た広島県産業奨励館〈原爆ドーム〉
（米軍撮影・広島平和記念資料館提供）

原爆ドームの歴史

「原爆ドーム」は、1915年に「広島県物産陳列館」として建設されました。設計は、当時の寺田祐之広島県知事の意向で、チェコの建築家ヤン・レッツェルに依頼されました。レッツェルは、「日本三景」のひとつである宮城県の松島に、「松島ホテル」を設計して評判をとっていました。「広島県物産陳列館」はその後、1921年に「広島県立商品陳列所」、1933年に「広島県産業奨励館」と名前が変わり、建設からちょうど30年目の1945年に、人類史上初の核兵器の犠牲となり、象徴的に「原爆ドーム」として語りつがれてきました。

建築工事中の広島県物産陳列館
（写真・広島市公文書館提供）

川越しに見た広島県物産陳列館
（絵はがき・広島市公文書館提供）

1940年ごろ（昭和10年代）の広島県産業奨励館
（絵はがき・広島市公文書館提供）

あの日—1945年8月6日 午前8時15分

8時15分をさしてとまった壁掛け時計
（吉田桑三氏寄贈・広島平和記念資料館所蔵）

1945年8月6日、午前8時15分、エノラ・ゲイ号と名付けられた1機のアメリカの爆撃機B29が、広島上空にあらわれました。エノラ・ゲイという名前は、同機のポール・ティベッツ機長の母親の名前でした。機体には人類初のウラン原爆「リトル・ボーイ」が積まれていましたが、この原爆は「核実験」をしていないので、広島への投下が実験としての意味ももっていました。

原爆は9600メートル上空から、風のない朝凪の時間帯に落とされ、約43秒かかって広島県産業奨励館の上空約600メートルまで落下し、さく裂しました。原爆は「ピカドン」とよばれることがありますが、実は、ピカッと光ったり、ドドド～ンと爆発音をだしたりする前に、ウランの原子核分裂反応で放射された大量の放射線を、地上の人びとに浴びせかけていました。そして、過熱された大気が「火の玉」となってピカッと光って目をくらませる強烈な光を発し、急膨張した大気の圧力が「衝撃波」となって地上の人間や家々を押しつぶし、最後にあれくるう爆風がすさまじい轟音とともにすべてをなぎたおしていきました。

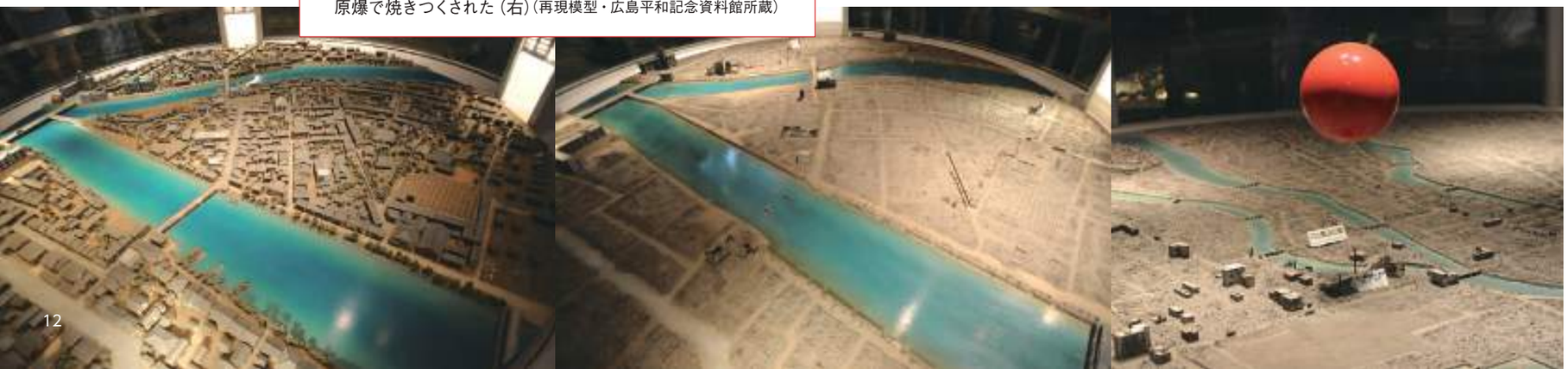
空から落とされたウラン原爆「リトル・ボーイ」
（模型・広島平和記念資料館所蔵）

人びとは放射線にあぶられ、倒壊した建物の下敷きになり、発生した大火災に焼かれ、爆風に木の葉のようにふきとばされて、命を落としました。赤ん坊も生徒も先生も、労働者も兵士も警察官も運転手も、お坊さんも神父さんも、若い女性も年老いた夫婦も、みんなみんな、突然おそいかかった悪魔のえじきになりました。

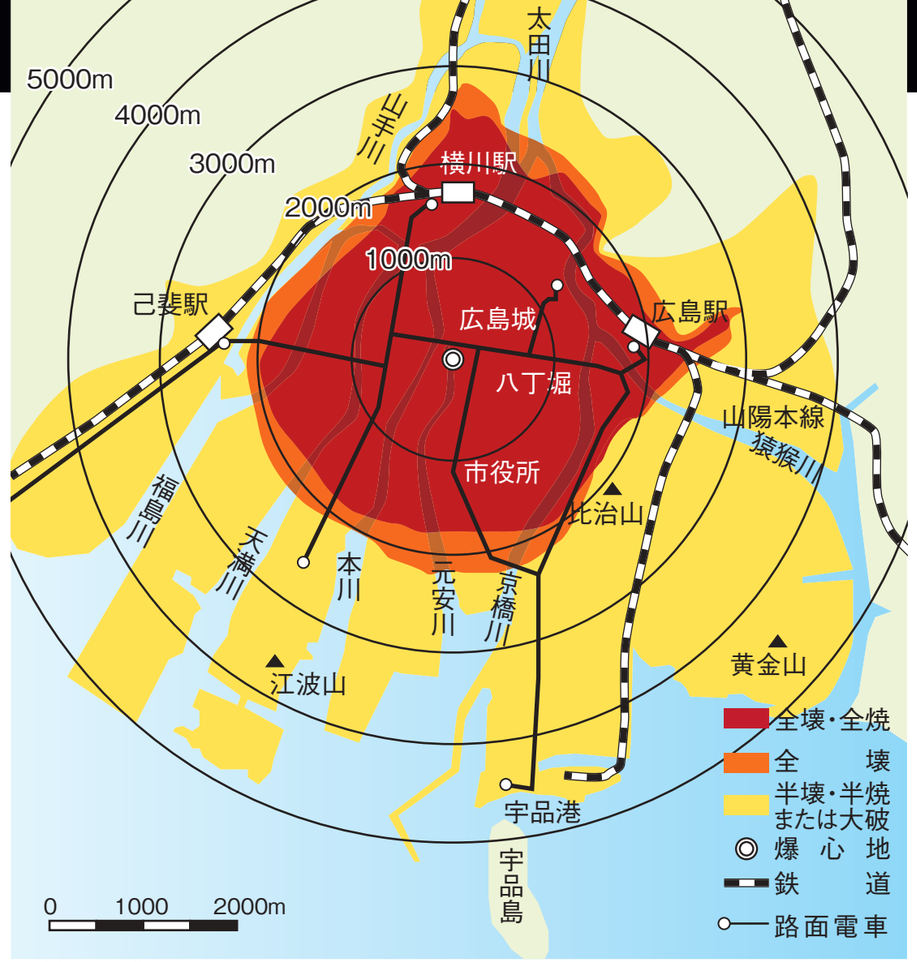
町並みは見る影もなく焼きつくされ、にぎわっていた軍都・広島は「死の街」へとかわりはてました。なにがなんだが分からないうちに、多くの人の人生がこの瞬間に途絶え、くるい、その年の内だけで14万人に、その後も7万4千人に死をもたらし、多くの被爆者たちに、いまなおのこる後遺症をもたらしました。大勢の人間が死に、「核の悪魔」は生きのこりました。

原爆投下の20～30分後に、現在の広島県海田町にあった陸軍需品廠から撮影されたとされるキノコ雲の写真。2013年に本川小学校で保存する原爆の資料の中から見つかった（広島市立本川小学校提供）

家がびっしりと並んでいた中島町（左）は、
原爆で焼きつくされた（右）（再現模型・広島平和記念資料館所蔵）



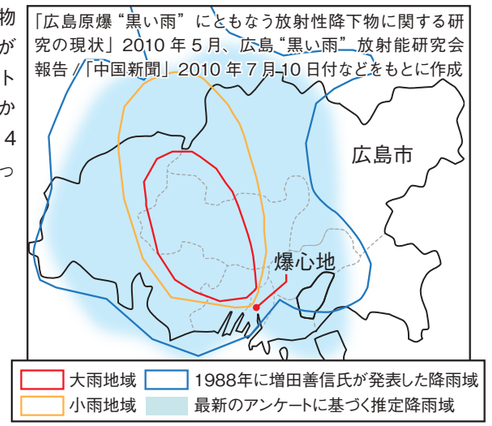
8月6日朝8時15分、広島県産業奨励館の上空600メートルで原爆がさく裂（赤い玉）した
（模型・広島平和記念資料館所蔵）



広島の被害のようす（1946年8月広島市調査から・参考『平和記念資料館学習ハンドブック』）

アメリカ軍機が撮影した広島のキノコ雲。キノコ雲の下には「核地獄」があった
（米国立公文書館所蔵・工藤洋三氏提供）

原爆さく裂後、放射性物質をふくんだ黒い雨がふったところ。アンケート調査（2008年）で、かんがえられていたより4倍くらいひろい範囲だったことがわかってきた



エノラ・ゲイ号（右）とポール・ティベッツ機長
（米国立公文書館所蔵・工藤洋三氏提供）

エノラ・ゲイ号。アメリカのB29爆撃機。広島に原爆を投下する前に8回の訓練飛行をおこない、その後、神戸と名古屋にパンプキン爆弾（左下写真）を投下した。パンプキン爆弾は、長崎に投下されたプルトニウム原爆の模擬爆弾で、「パンプキン」は「かぼちゃ」のこと。1945年7月31日にテニアン島沖で原爆投下の最終訓練をおこない、広島原爆の模擬爆弾を投下した。エノラ・ゲイ号は、8月9日の長崎原爆投下にも天候観測機として参加した。

地上におかれたパンプキン爆弾
（米国立公文書館所蔵・工藤洋三氏提供）

市北部上空から見た本川ぞいから爆心地付近。中央が相生橋、その向こうがいまの平和記念公園
（米軍撮影・広島平和記念資料館提供）

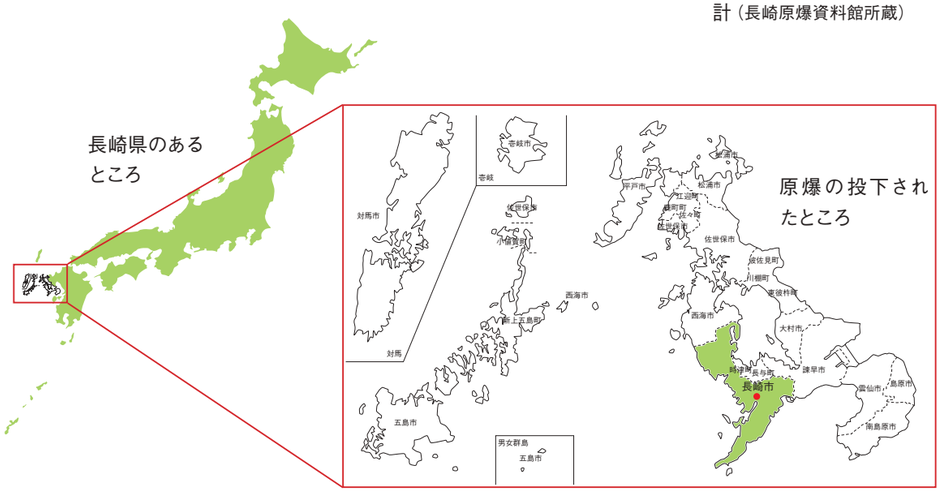
「原爆ドーム」とよばれるようになった広島県産業奨励館。上被爆前（広島市公文書館提供）、下被爆後
（川本俊雄氏撮影・川本祥雄氏提供）

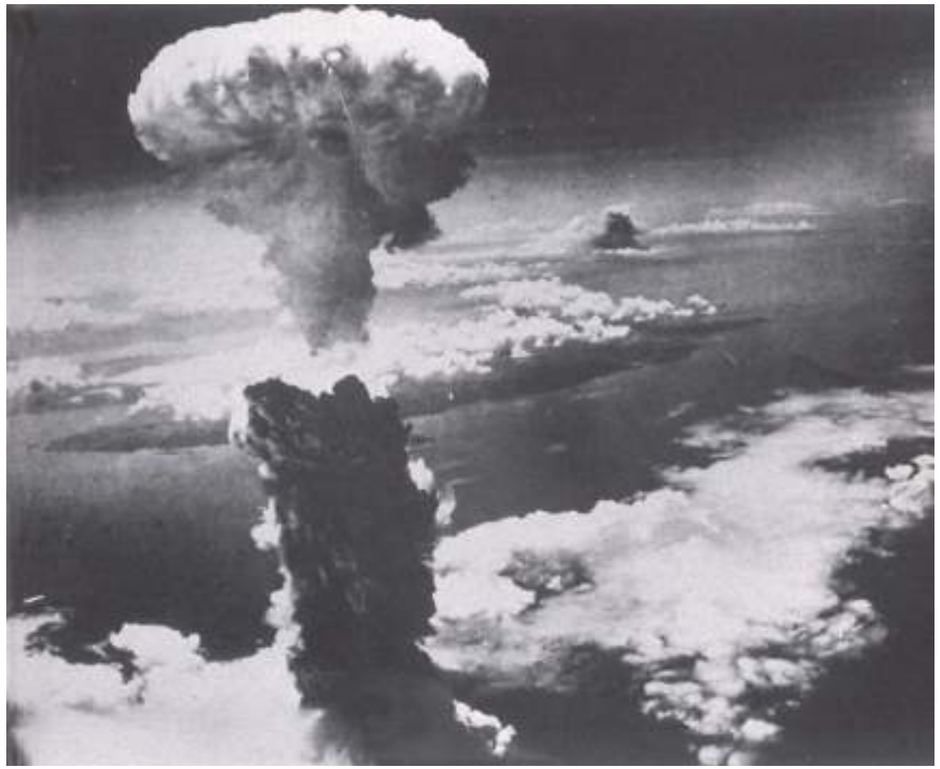
もうひとつのあの日―1945年8月9日午前11時02分

1945年当時日本と戦争していたアメリカは、はじめのころはヒトラーが支配するドイツを相手として原爆開発を進めていましたが、5月8日にドイツが降伏すると攻撃の的を日本にむけました。最初の原爆が実験されたのは7月16日で「プルトニウム」という物質をつかった原爆でしたが、アメリカは当時もうひとつ「ウラン」という物質をつかった原爆も開発していました。

結局、最初につかわれたのはウラン原爆で、その年の8月6日朝8時15分に広島に投下され、「核の地獄」をもたらしました。その3日後、アメリカは第2の原爆（プルトニウム原爆）をのせたB29爆撃機「ボックス・カー」をテニアン島からとびたたせ、第2目標の小倉にむかわせました。機長はチャールズ・スウィーニーでした。

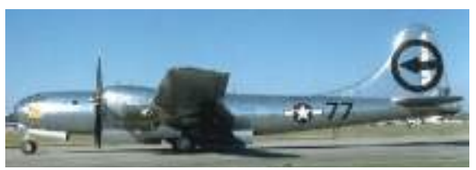
長崎原爆投下時刻、午前11時02分をしめす時計（長崎原爆資料館所蔵）





米軍機からうつした長崎原爆のキノコ雲（米国立公文書館所蔵・工藤洋三氏提供）

ボックス・カーは出発直前に燃料ポンプに故障をおこしたうえ、屋久島上空でであうはずだった写真撮影機ビッグ・スティンクとの合流にも失敗、目標の小倉への進入も不正確だったばかりか、前日空襲を受けたとなりの八幡市（現・北九州市）の大火災の煙が小倉の町をおおって原爆投下の目標が見えにくくなるというハプニングにみまわれました。やむなくボックス・カーは攻撃目標を小倉から第3目標の長崎に変更、午前11時02分に第2の原爆を投下し、地上に「第2の核地獄」をもたらしました。



長崎に原爆を投下したB29 ボックス・カー。出撃時は尾翼のマークが△に変えられた（米軍撮影）

長崎に投下されたプルトニウム原爆「ファット・マン（ふとっちょ）」（米国立公文書館所蔵・工藤洋三氏提供）

ナガサキの原爆を語りつぐ

長崎の原爆をつたえる施設

長崎原爆資料館〈36ページマップ 53〉

住所	〒852-8117 長崎市平野町 7-8
といあわせ	TEL 095-844-1231　FAX 095-846-5170
メール	genbaku@city.nagasaki.lg.jp
ホームページ	http://www.city.nagasaki.lg.jp/peace/japanese/abm/

1955年につくられた長崎国際文化会館内に保存されていた被爆資料をうけつぎ、世界平和への願いをこめて1996年に開設された資料館です。針が11時02分で止まったままの時計や原寸大の浦上天主堂の側壁に始まり、被爆写真やさまざまな資料はもとより、原爆が投下されるにいたった経過、核兵器開発の歴史などが分かりやすく解説されています。ビデオコーナーつきの図書室や300人以上収容できるホールにくわえ、特別展示室もそなえられています。

半地下の長崎原爆資料館。となりの国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館とも、直接行き来できるようになっている

展示のようす。被爆した浦上天主堂の側壁の再現

熱戦で焼かれた被爆がわらにふれられる

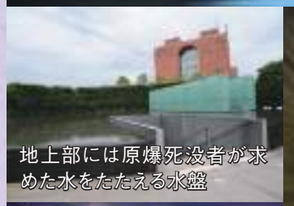
発掘された浦上天主堂の天使像とロザリオ

追悼空間。正面は原爆落下中心地をむき、原爆死没者名簿をおさめた棚がある

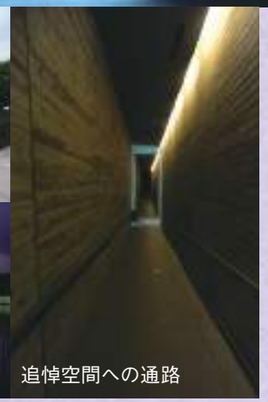
国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館〈36ページマップ 54〉

住所	〒852-8117　長崎市平野町 7-8
といあわせ	TEL 095-814-0055　FAX 095-814-0056
メール	info@peace-nagasaki.go.jp
ホームページ	http://www.peace-nagasaki.go.jp/

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館は「原子爆弾被爆者に対する援護に関する法律」（被爆者援護法）に基づいて開設された施設で、国立広島原爆死没者追悼平和祈念館の姉妹施設です。原爆で命を落とした人びとの尊い犠牲を心に刻み、平和な世界をつくるため、多くの人が原爆の悲惨さを深く理解し、被爆体験をこれからも語りついでいくことを願ってつくられた点は広島の施設とまったくおなじですが、海外で原爆展を開催する国際的なプロジェクトにも積極的に取り組んでいます。



地上部には原爆死没者が求めた水をたたえる水盤



追悼空間への通路

夜には1945年末までの推定原爆死没者数とおなじ7万このあかりがともる

長崎市永井隆記念館〈36ページマップ 75・76〉

住所	〒852-8113　長崎市上野町 22-6
といあわせ	TEL ／ FAX 095-844-3496
メール	nagai-takashi@mxb.cncm.ne.jp
ホームページ	http://www.city.nagasaki.lg.jp/peace/japanese/abm/insti/nagai/

永井隆記念館は、被爆前の自宅跡地に、永井隆博士が私財を投じて「うちらの本箱」という図書館をつくったのが始まりです。その後、1952年に「長崎市永井図書館」が開設され、69年に「長崎市立永井記念館」に改称されましたが、2000年には全面的に改修して「長崎市永井隆記念館」と改称されました。博士の遺品や書画や写真が展示され、2階には館の発足時に子どもたちに開放していた「うちらの本箱」の心を受けついだ図書館もあります。隣接して、永井博士が療養していた「如己堂」があります。

記念館の入り口

如己堂